



保存期腎不全患者の病識の現状把握と看護介入の今後の課題

医療法人社団スマイル クレア焼山クリニック

○藤井恵子、永谷美子、桐林慶





はじめに

当院は無床の透析クリニックであり、一般外来業務は透析室看護師が兼務している。

そのため保存期CKD患者に接する時間は限られており、十分な患者とのコミュニケーションがとれていないのが現状である。

そこで、CKD患者への指導の看護師介入を目的に、当院CKD患者の病識に対する現状把握を行った。

そこから見えた今後の課題及び展望について報告する。





対象・方法

□対象

当院外来保存期腎不全（CKDステージ3～5）のうち、クレメジン内服中の患者 10名

□方法

クレメジン内服のアドヒアランスを調査し、個々の患者のCKDステージに応じた食事、生活指導をパンフレットを用いて行った。
その後、介入前後の患者意識の変化を調査した。





患者背景

年齢	75.6±9.5歳
性別	男性：9名 女性：1名
CKDステージ	3a：1名 3b：1名 4：4名 5：4名
原疾患	CGN：5名 DM：2名 不明：3名
通院歴(月)	53.3±34ヵ月
クレメジン服用量	6g/day：9名 4g/day：1名

(平均±標準偏差)

H26年11月現在





今回の指導のポイント

①CKDについての理解

②CKD進行予防への理解

②-1 クレメジン内服のアドヒアランス

②-2 合併症予防、生活習慣の注意点



介入スケジュール

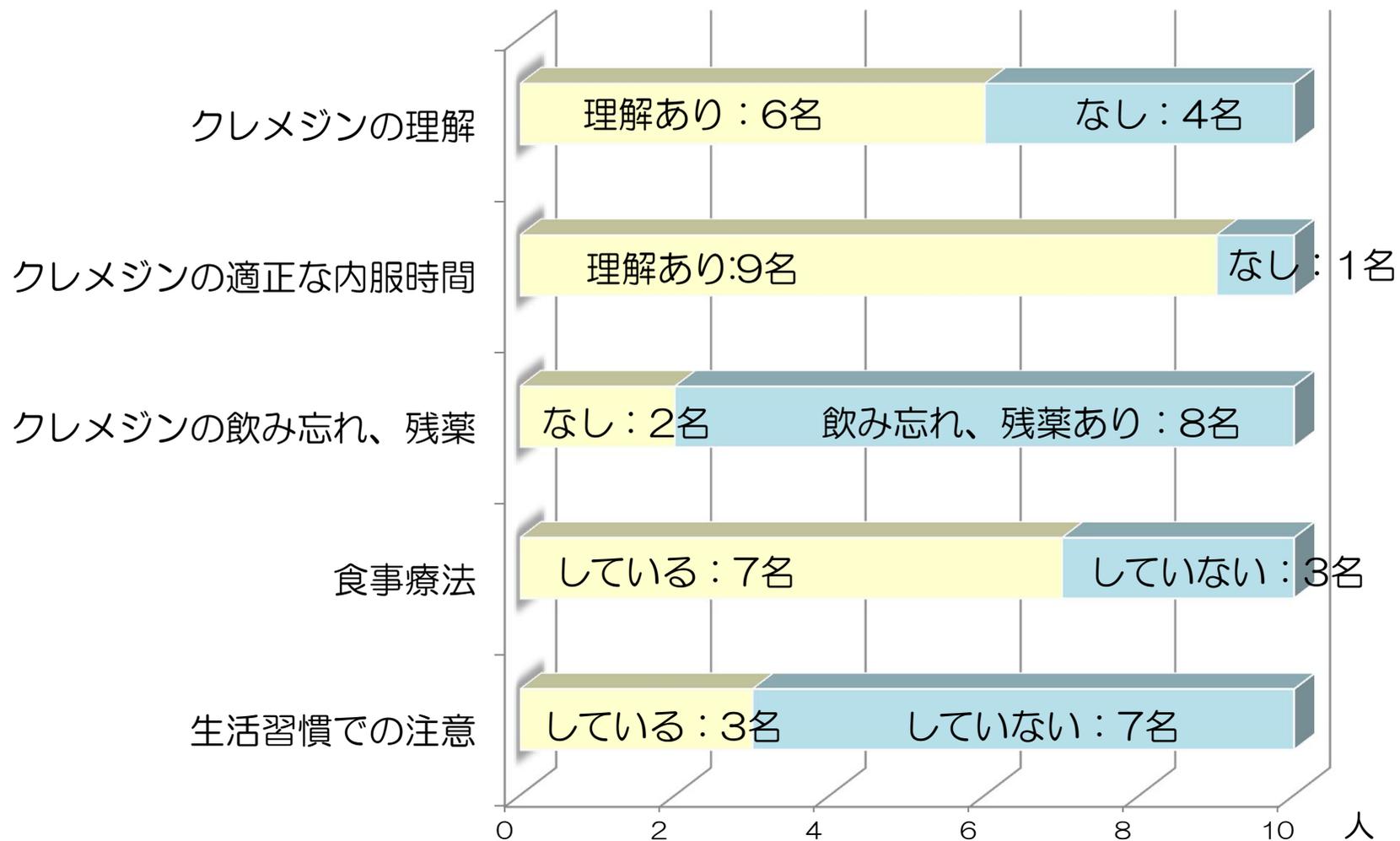
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
クレメジン残薬調査							受診時の 処方日数
パンフレット 配布		<ul style="list-style-type: none"> ・クレメジンの服用方法について ・ステージに応じた食事指導 ・生活習慣での注意点 					
データ説明		腎機能、貧血について					
肺炎球菌ワクチン 接種啓蒙		感染予防					
インフルエンザワクチン接種							
意識調査①				意識調査②			

クレメジンの処方日数

	年齢	ステージ	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
A氏	76	5	30	30	30	30	30	30	30	転院
B氏	72	3b	30	30	30	21	30	30	30	30
C氏	70	3a	30	30	30	30	30	30	~クレメジン中止	
D氏	84	4	30	30	0	0	0	0	30	30
E氏	89	4	30	30	0	20	15	30	30	30
F氏	86	4	30	30	20	30	26	30	30	30
G氏	86	5	30	30	30	30	30	30	30	30
H氏	63	4	30	30	11月以降受診なし					
I氏	68	5	30	30	30	30	血液透析導入			
J氏	62	5	30	30	30	30	血液透析導入			

残薬による翌月分の処方日数

意識調査①(介入開始時)

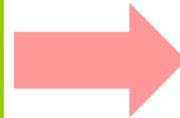




聞き取り調査

クレメジンの効果の理解、適正な服用方の理解はあるが
なぜ残薬、飲み忘れがあるのか？

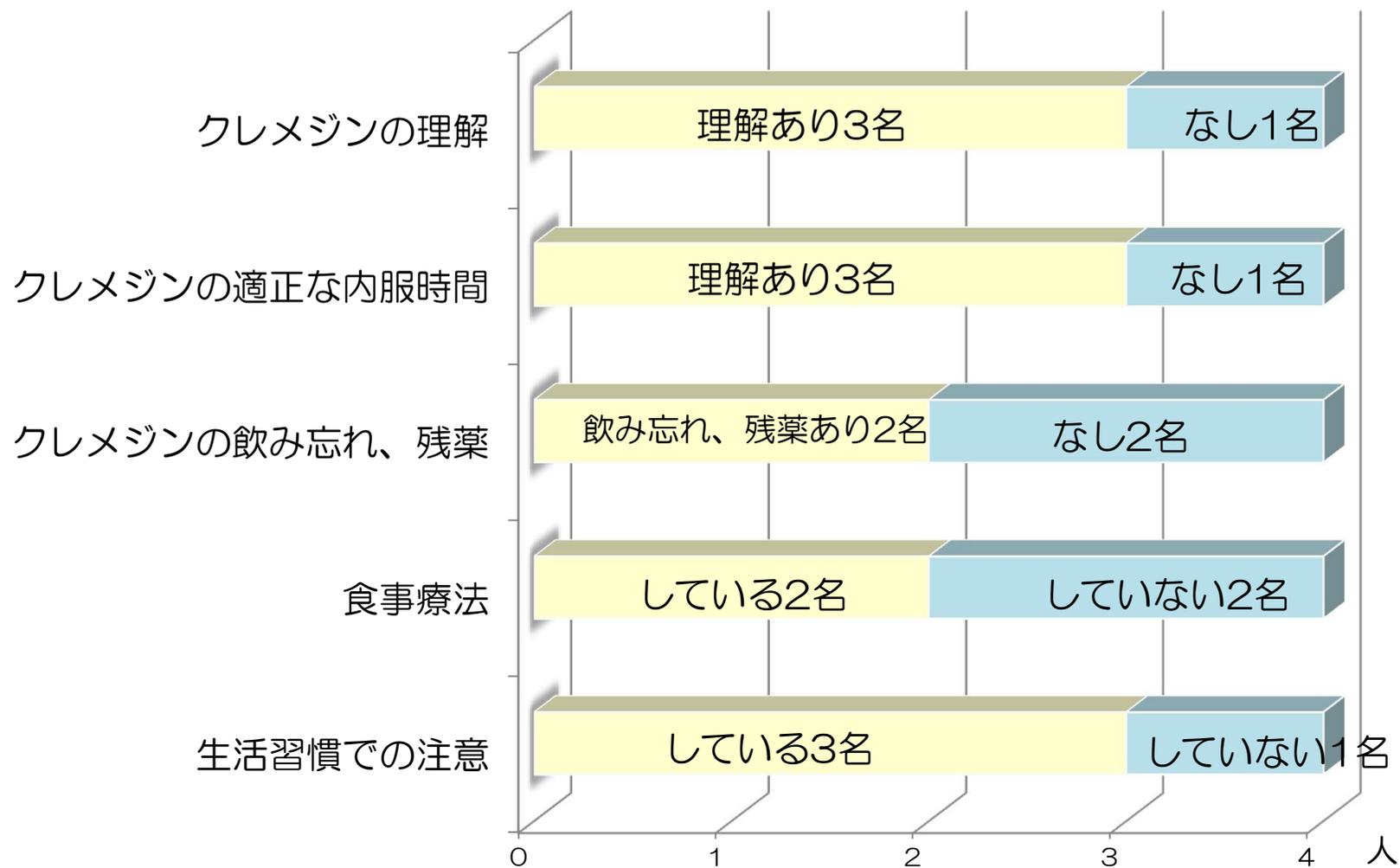
- 飲みにくい。
- 食後すぐ飲む薬ではないから。
- 家族が管理しているため、家族がいない時は忘れる。
- 外出した時には持っていない。



- クレメジンの内服方法の提案
- 管理方法の提案
- 家族への再協力の依頼

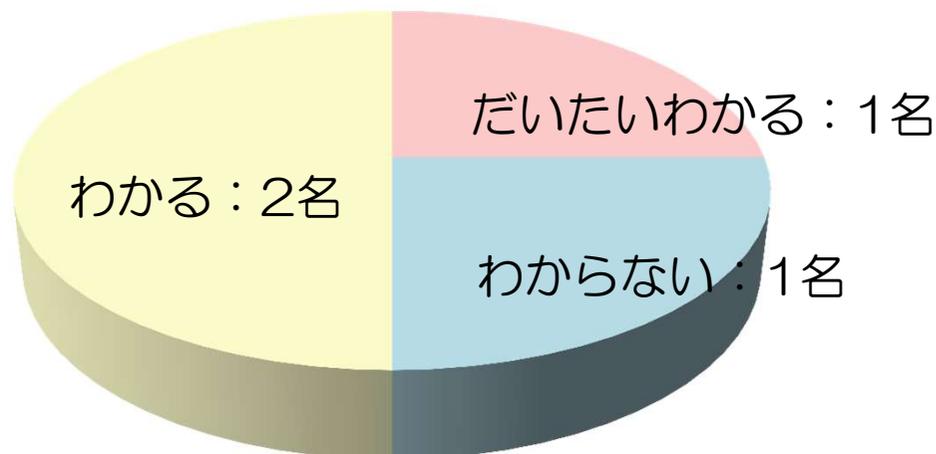


意識調査②-1 (介入後)



意識調査②-2

Q.ご自分の腎機能がどのくらいの状態かご存じですか？



Q.外来受診の際、医師の診察以外に看護師と接することについてどのように思われますか？

- 細かく説明してもらえてわかりやすい。
- 食事の説明や指導をしてもらえることが良い。
- クレメジンの飲み易い方法を教えてもらって飲めるようになった。
- 採血、注射だけで終わらないところがありがたい。
- 話しかけてもらえることが嬉しい。



考察

看護師が外来で行うべき支援は、患者一人ひとりのさまざまな療養生活に焦点を当てることとなり、画一的ではない。

今回、介入開始後に約半数の患者の転院や透析導入もあり、十分な検討を行うことが出来なかったが、それぞれの患者において、CKDに対する療養生活での問題点や、服薬アドヒアランスの状況を少なからず把握することはできた。

何より患者の声を聴くことで、より具体的な支援方法を考えることができ、外来での患者との関わり方を改善するきっかけとなった。





今後の課題及び展望

CKDとして診断された早期からの関わりが信頼関係を築き、患者の疾患への理解と自己管理行動の意欲向上に繋がることを期待するとともに、更には看護師が出来る支援のシステムを確立し、CKD進行の抑制とともに透析導入遅延効果に努めたい。

